

洞爺湖周辺地域エコミュージアム - 有珠火山の取組 -

Current progress and future improvements of Lake Toya Area Ecomuseum Project, Usu Volcano,

田鍋 敏也 [1]; 三松 三朗 [2]

Toshiya Tanabe[1]; Saburo Mimatsu[2]

[1] 壮瞥町; [2] 三松記念館

[1] Sobetsu Town; [2] Mimatsu Museum

<http://www.town.sobetsu.hokkaido.jp/eco/index.htm>

はじめに

壮瞥町や洞爺湖、有珠山周辺は、支笏洞爺国立公園地内に位置し、年間5 - 6百万人の観光客が来訪する。現在この地域で展開されている火山、自然環境、農場、森林、遺跡を活用した住民参加型エコミュージアム（野外博物館）プロジェクトを紹介する。

1 背景

2000年3月の有珠山噴火は洞爺湖周辺に大きな影響を及ぼした。2000年噴火災害遺構は新たな観光スポットになっている。こうした観光資源や火山遺構を結びつけるエコミュージアムを創ることによって、洞爺湖周辺をより魅力的な観光地、ふるさとにしていくことを目指している。

1) 経過

2000年3月 有珠山噴火 2001年9月 エコミュージアム構想策定会議設置

2002年6月 エコミュージアム構想策定、公表

2002年10月 エコミュージアム宣言、ロゴマーク選定

2) 施設 主要サテライト整備 有珠山、昭和新山、火山遺構、地質露頭

情報拠点整備 三松正夫記念館

2007年11月 情報拠点コアセンターオープン

3) 運営主体 洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会

構成 伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、北海道、北海道開発局

会長 壮瞥町長 副会長 洞爺湖町長

活動団体 そうべつエコミュージアム友の会 など

2 メインテーマ

火の山・北の大地の歴史にふれる自然博物館

- 火山の恵みを学び、自然があふれる大地にふれ、先人のあしあとをたどって -

3 基本構造

地域の範囲（伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町）

情報発信・活動拠点（コア/テーマセンター）

観光防災情報センター、ビジターセンター など

サテライト（地域資源をテーマに沿って位置づけ）

火山記念公園、自然学習施設 など

トレイル（散策路など） 有珠外輪山遊歩道

アクセス道路（サテライトなどを結ぶ交通連絡網）

4 3つのエリアとテーマ

1) 「火山の恵み（遺構）」エリア

有珠山周辺・昭和新山・有珠湾周辺

2) 「大地の恵みと文化」エリア

洞爺湖・長流川周辺

3) 「先人の歴史と海の恵み」エリア

噴火湾沿岸周辺

5 導入の目的と効果

・地域の総合的な学習の場の創出 ・火山との共生の歴史の伝承 - 将来の減災効果 -

・住民参加型地域振興の推進 ・新たな地域間連携の推進 ・産業の育成と観光振興の推進

6 むすび

洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会（会長山中漠壮瞥町長）が構想を推進している。エコミュージアム友の会（三松三朗会長（三松正夫記念館館長））などが組織され、エコミュージアムを活用したボランティアガイド事業も活発になっている。

上記の説明のとおり、日本における最初のジオパーク候補として、洞爺湖周辺エコミュージアムは最適と考えている。